

## 池田研究への新たな地平

神 立 孝 一

創立者池田大作先生を対象とした「池田研究」を、いよいよ本格的に開始したい。2000年11月16日に開設された創価教育研究センターは、「本学の歴史並びに創立者池田大作先生及びその淵源となる牧口常三郎先生、戸田城聖先生の創価教育の思想と実践の研究を行い、本学の発展に資すること」を目的としている。第一の目的こそが「池田研究」なのである。

だがこの第一の目的を果たすべく、具体的に取り組んでいこうとするとき目の当たりするのは、果てしなく広い「池田研究」の裾野である。その裾野はわれわれを立ち竦ませる。何から手をつけたらよいのかという判断も、下せないほどである。

まずは、創立者の大学構想・教育理念について研究しなければならないだろう。創立者の教育観は、大学のみならず初等・中等教育、さらには家庭教育にまで及ぶ広範なものである。また、創価思想・創価教育論という根底部分に関わった分野がある。ここには、平和・文化の基盤を支える哲理があり、それに基づく具体的な運動論が存在する。

こうした点を考察するために、創立者の著作を丹念に読み解くという、もっとも基本的な作業も必要となる。その前提として、これまで創立者が著されてきた書物自体も収集しなければならない。国内における刊本、様々な新聞や雑誌に発表された論文やエッセイ。国外において翻訳された海外著作。これらはいずれも膨大な労力が必要であり、その存在の意味と要因を探るには、計り知れない情報と思索が必要となる。どれをとっても、気の遠くなるようなものばかりなのである。

そこでまず、こうした広範囲に及ぶ研究領域を対象とする場合に必要不可欠な、それらに共通する概念、あるいは基盤というものを探っておきたい。それは、この研究領域のすべての事柄の出発点であり、なおかつ到達点ともなりうる原理である。この点を鑑みると、すでに創立者自身がそれを示されていることに気づく。それは、創立者のライフワークともいべき作品、小説『人間革命』の「はじめに」の一文である。

「一人の人間における偉大な人間革命は、やがて一国の宿命の転換をも成し遂げ、さらに全人類の宿命の転換をも可能にする」(『人間革命』第1巻)

この一節は、あまりにも有名なものであるが、この後の創立者の様々な論文・随筆・エッセイ、そして膨大なスピーチを紐解いていくための、重要な基点を示していると思えてならない。この一文を、創立者は「この物語の主題」と位置づけられている。それはまた、「池田研究の主題」でもあるのだ。

創立者の業績を示すためにこれまで用いられてきた、哲学者・宗教家・思想家・教育家・詩人・文学者、等々の呼称。これらは、決して一般的なものではなく、その根底に実践が伴っているところに最大の特色があるといえる。つまり、理念もしくは理論と実践が一体化している

のである。世界の識者たちを納得させ、理解を生み、そして連帯を生じせしめるものこそが、創立者の具体的な行動なのである。それは、創価教育の淵源たる牧口常三郎先生、戸田城聖先生からの継承であろうことは間違いない。そして、その具体的な行動が目指したものの、そしてそれが指し示すもの、それが「一人の人間における偉大な人間革命」なのではないだろうか。

したがって、まず我々がなさねばならない研究は、創立者のこれまでの行動を、できる限り詳細に調査研究していくことといえる。

「偉大な人間革命」は、決して一朝一夕にしてなされたものではない。それはまさに、創立者ご自身が歩んでこられた人生に、見事に示されているものではないか。そこを知らずして、文言のみをとらえ、創立者の思想や哲学を解明しようとしても、それはおそらく浅薄なものにとどまり、本質をはずしたものになりかねない。いかなる行動、いかなる実践によって、何がどのように変わっていったのか。人間そして生命それ自体が、どのように変革していったのか。その一つひとつを丁寧に後付けすることこそが、本格的な「池田研究」であることを確認しあいたいのである。

これまで、国内外を問わず創立者について論究された論文、書物は少なくない。だが、そのほとんどは一過性のものであり、本格的な科学性を帯びた研究にはほど遠いものといえる。こうした状況の中で、昨今、中華人民共和国内の諸大学で、「池田研究」が開始された。2001年12月の「北京大学池田大作研究会」の設立を嚆矢として、2002年1月には「湖南師範大学池田大作研究所」、2003年3月には「安徽大学池田大作研究会」が、そして2003年9月には台湾で「中国文化大学池田大作研究センター」が設立された。各研究機関における活動は、徐々に広がりを見せ、その研究成果も刊行されるにいたっている。こうした状況は、「池田研究」の本拠地であるべき創価大学に、基本的な情報供給の要請を生じせしめているのである。創価大学における「池田研究」の進展は、まさに火急の要件となりつつあるのだ。

2003年10月29日、創立者は初めて当センターを訪問して下さった。センターの事務室から、書庫にいたるまでくまなくご覧いただいた。これまで収集してきた書籍や諸資料も、作業中であった創立者の翻訳書籍の整理作業も、視察していただくことができた。そして数々の温かい激励を賜った。我々は、この日をもって、まさに本格的な「池田研究」の開始を誓い合ったのである。

ここで再度確認しあいたい。「池田研究」を貫く大原理である、「一人の人間における偉大な人間革命」。それはまた、それを推進しゆく我々一人一人の原理でもあるということ。ここにこそ、「池田研究」の新たな地平が開けるのであろう。共に、地道な調査研究の積み重ねを、開始して参りたい。